

「おおくのじのあとみなさまのおかげにより、「おじいさん」をめぐまれました。ふかぐ「おへをよひ」び、ありがたくいただきます。」

小学一年 さかい まりな

「おおくのじのあとみなさまのおかげにより、「おじいさん」をめぐまれました。ふかぐ「おへをよひ」び、ありがたくいただきます。」
とわたしは、一回りせんのまえに手をあわせます。わたしは「おじいさん」がすきです。

わたしは、なつやすみにおじいちゃんにあいにこま、せんやつのはなしをきかれました。おじいちゃんは、九十五歳のおじいさんです。
そのとき、おじいちゃんは十四さいのがくせいでした。でもぐんきようはせてもらひなくて、まじにちぐれんをしていたんです。せんやつは、いまのわたしたちのようじ、「じゆう」に本がよめなかつたそうです。ものがなんにもなかつたからです。一ぱんつらかったのは、おじいのかねをもつていかれたことじ、おじいのかねは、せんやつがうべきのぞくうにかえられたそうです。それをきいて、わたしは、すくつかなしかつたです。でも、おじいちゃんはいいました。

「一ぱんたいせつのはいのちだよ。いきているだけでありがたい。」

わたしは、おじいちゃんの「おとおもい」だとおもいました。ものはかかるけど、このおなかがえないのであります。せんやつむすの「おじいちゃんは、いつもおなかがへつっていたそ�です。たべものがなくて、いもばかりたべていた」とおじいちゃんはわらいました。いもがないときは、むしも木のねつ」もたべたそ�でうす。そのはなしをきき、びつくりしました。いまはそんなものはたべないし、わたしはそんなものたべたくありません。でも、いきるためなら、たべるかもしけないとおもいました。

これからも、一回三回半をあわせよつとおもいます。「せんをたべられて、いかでござる」とせ、すいへありがたい」とだからです。